

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

水準訂正で迎える決算シーズンのポイントは？



円安進展とともに株価指数の活躍が続く株式相場。東証1部株価指数は短期調整を挟みながら底堅い動きを見せた一方で、新興株価指数のマザーズ指数、ジャスダック指数はさらに上値を伸ばすなど、新興市場の好調ぶりが目立っている。

前回コラムでも新興市場銘柄を対象とした「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」の発売を紹介。16日に配信したレポート提供銘柄からは、配信翌営業日の17日にテックファーム(3625)、リニカル(2183)が始値から10%以上の上昇率を記録するなど、わずか1営業日で返金条件クリアの目標株価を達成。購入者からは市況分析を高く評価していただいた。

さて、昨年後半から見られた相場的水準訂正も、今週後半から来週にかけて本格化する「決算発表シーズン」を控え、一旦は調整可能性も警戒されるだろう。決算数値を見極めたいとの「買い手控え」や「決算警戒売り」、そして開示後の「決算売り」が予想されるためだ。ただ、決算が再評価の契機となる銘柄もあるだけに、個別視点で取り組む局面と言える。

そこで弊社では、今回の決算相場における投資戦略をまとめた「厳選銘柄付き緊急市況レポート」を発売する。決算を見据えた銘柄アプローチに着目したテーマとなるだろう。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。